



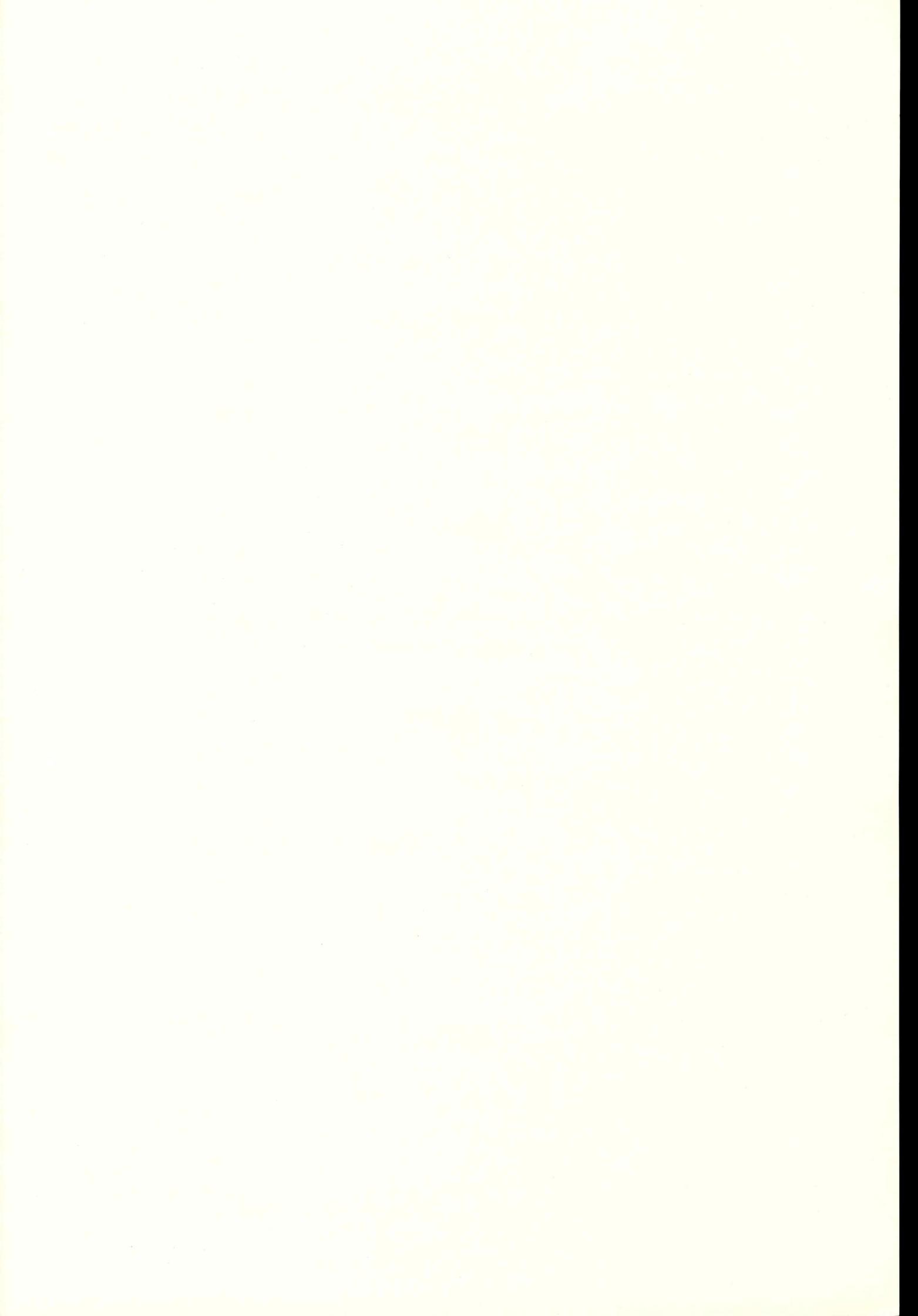
CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館

年報 NO. 26

April 1999-March 2000

ANNUAL BULLETIN OF
CHIBA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART



目 次

ごあいさつ	1
沿 革	2
平成11年度主要記事	4
展 示 事 業	5
常 設 展	6
特 別 展	20
企 画 展	22
普 及 事 業	25
美術講演会・ミュージアムコンサート	26
実技講座・こども写生会	27
1日学芸員体験学習・情報資料室・活動協力	28
貸出資料一覧	31
調 査 ・ 収 集 事 業	32
収 蔵 資 料	33
管 理 運 営	36
機 構	37
平成11年度職員・協議会委員	38
利 用 状 況	39
展 示 室 利 用 団 体	40
施 設	44
関 係 法 令 等	48
利 用 案 内	49

ご あ い さ つ

平成11年度の千葉県立美術館における活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通し、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてまいりました。

11年度は、開館25周年記念特別展として、アメリカ、テキサス州にあるヒューストン美術館所蔵作品より、14世紀後半の祭壇画から現代にいたるヨーロッパ美術の流れを概観できる72点を「ヒューストン美術館展」として開催しました。企画展としては、本県八千代市に在住し、国際的な版画家として活躍した星襄一に焦点をあてた「星襄一展」を開催しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、種々のテーマに基づいた常設展を開催したほか、館外2地域において移動美術館を実施しました。

このほか、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催し、さらに、こどもたちに創作の喜びや美術館活動に対する理解を深めてもらうため、「こども写生会」、「1日学芸員体験学習」を開催しました。また、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

作品の収集にあたっては、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成12年6月

千葉県立美術館長

吉 田 英 夫

沿 革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる代案として千葉市中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟第1期工事の実施設計完了する

昭和47年9月21日 展示棟杭打工事着工

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる

昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する(職員14名)

昭和49年10月23日 開館記念式典を行う

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧

会」を開催一般公開を始める

昭和50年2月21日 管理棟杭打工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月20日 管理棟竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される

昭和53年11月18日 浅井忠像完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会

昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される

昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する

昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する

昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する

昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化

昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置

昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽

昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事

昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示

	棟，収蔵庫，機械室増築工事 実施設計完了する	平成2年11月7日	案内標識改修工事着工
昭和62年10月15日	展示棟，収蔵庫，機械室増築 工事着工（監理・大高建築設 計事務所，施工・株式会社竹 中工務店）	平成3年1月31日	収蔵庫（第1，2室）冷凍機 改修工事完了する
昭和63年5月20日	受水槽設備改修工事（地上式） 着工	平成3年2月20日	案内標識改修工事完了する
昭和63年8月31日	受水槽設備改修工事（地上式） 完了する	平成3年12月6日	空調用ポンプ改修工事完了す る
昭和63年8月31日	展示棟，収蔵庫，機械室増築 工事完了する	平成4年4月1日	運営の一部が（財）千葉県社 会教育施設管理財団へ委託さ れる
平成元年2月28日	増築展示棟周辺芝張工事完了 する	平成4年10月20日	温湿度記録装置改修工事完了 する
平成元年4月1日	普及課が新設され，3課とな る	平成4年12月18日	食堂改修工事完了する
平成元年4月20日	開館15周年記念特別展「房総 と近代美術」を開催する	平成6年7月23日	開館20周年記念特別展「房総 の美術」を開催する
平成元年9月11日	空調機改修工事実施設計完了 する	平成10年2月23日	ガス設備改修工事完了する
平成2年6月8日	空調機改修工事完了する	平成10年12月24日	空調設備改修工事完了する
平成2年9月29日	収蔵庫（第1，2室）冷凍機 改修工事着工	平成11年6月5日	開館25周年記念特別展「ヒュ ーストン美術館展」を開催す る
		平成12年3月30日	屋根材剥落補修工事完了 点字ブロック設置工事完了

平成 11 年 度 主 要 記 事

4月1日	常設収蔵作品展 「新収蔵作品」 「風景の表現」 「日本画の魅力」 (5月28日まで)	11月18日	企画展 「第23回千葉県移動美術館」 (茂原市立美術館・郷土資料館 12月1日まで)
5月21日	陶芸講座 (7月9日まで 日数6日)	11月27日	常設収蔵作品展 「書」 (1月23日まで) 「工芸の世界」 (4月9日まで) 「季節の表情」 (4月16日まで)
6月5日	特別展 「ヒューストン美術館展」 (7月11日まで)	12月4日	企画展 「第23回千葉県移動美術館」 (下総町多目的ホール 12月19日まで)
6月19日	美術講演会	1月12日	常設収蔵作品展 「彫刻」 (4月16日まで)
7月17日	常設収蔵作品展 「浅井忠と弟子たち」(1) 「フォンタネージとバルビゾン派」(1) 「版画の魅力」 「こどものための展覧会」 (8月29日まで)	1月29日	常設収蔵作品展 「動物の表現」 (4月16日まで)
7月20日	第4回こども写生会		
7月21日	博物館実習 (7月27日まで 日数6日)		
7月21日	彫刻講座 (8月5日まで 日数10日)		
8月17日	第4回こども写生会展 (8月22日まで)		
9月4日	企画展「星襄一展」 (10月11日まで)		
9月25日	ミュージアムコンサート		
10月20日	版画講座 (11月4日まで 日数10日)		
11月13日	常設収蔵作品展 「浅井忠と弟子たち」(2) 「フォンタネージとバルビゾン派」 (2) (4月9日まで)		

展 示 事 業

常設収蔵作品展は、「浅井忠と弟子たち」「フォンタネージとバルビゾン派」などをはじめ、「日本画の魅力」「こどものための展覧会」「季節の表情」「書」「工芸の世界」など、テーマに基づく構成により開催した。

特別展としては、「ヒューストン美術館展」を実施した。

また、企画展として「星裏一展」と「第23回千葉県移動美術館」を茂原市と香取郡下総町で開催した。

「新収蔵作品」

平成10年度に新たに収蔵した日本画・洋画・工芸・書の作品を紹介した。

会 期 平成11年4月1日(木)～5月28日(金) 50日間
 会 場 第3展示室, 第8展示室
 展示点数 47点
 入場者数 16,578人

〈日本画〉

1	大岩 成徳	玉蜀黍	1980
2	〃	南天に小禽	1982
3	富取 風堂	朝顔と蜻蛉	不詳
4	〃	海老	〃
5	〃	柿と軍鶏	〃
6	〃	菊花	〃
7	〃	罌粟	〃
8	〃	魚と胡瓜	〃
9	〃	雀と桃	〃
10	〃	猫とかに	〃
11	〃	白梅	〃
12	〃	富士	〃
13	〃	酸漿と鶴鴿	〃
14	〃	牡丹	〃

11	佐々木 一郎	漁村	1981頃
12	〃	漁村(1982)	1982
13	篠崎 輝夫	敦煌莫高窟	1996
14	〃	西域残映	1997
15	前林 章司	支笏湖畔	1965頃
16	〃	奥入瀬	1968
17	〃	クムジュンからのアマダブラム峰	1987
18	ビゴ 一	稲毛の女漁師と子ども	1892~97頃
19	〃	稲毛の夕焼け	〃
20	〃	稲毛村のわがアトリエ	〃
21	〃	女漁師	〃
22	〃	岸壁の二人	〃
23	〃	二人の漁師	〃
24	〃	漁師と舟	〃

〈洋画〉

1	浅井 忠	本所風景	1878頃
2	〃	朝鮮大同門図	1894
3	〃	灑家邨天長節祝宴	1894~95頃
4	〃	グレーの塔	1901
5	大野 隆徳	隅田川	1929
6	〃	李朝の鉢と金魚	1934
7	〃	香遠亭	不詳
8	〃	ルイニ「葡萄と子供」(模写)	〃
9	小堀 進	大穹	1974
10	佐々木 一郎	漁村(1964)	1964

〈工芸〉

1	青木 滋芳	早瀬	1971頃
2	鹿島 一谷	布目象嵌白鷺四態図銀水注	1996頃
3	宮之原 謙	双鱼花瓶	1958

〈書〉

1	板倉 花巻	神情詩	1949
2	小谷 碧洞	蘭亭序	1934
3	種谷 扇舟	龍虎	1997
4	〃	靈峯	〃
5	千代倉 桜舟	いろはうたの構築	1984
6	外口 静葉	白楽天詩「晏起」	1955~64頃

「風景の表現」

房総を描いた作品を中心に、洋画の多様な風景表現を紹介した。

会 期 平成11年4月1日(木)～5月28日(金) 50日間
 会 場 第1展示室
 展示点数 19点
 入場者数 16,578人

1	浅井 忠	藁屋根	1887頃	11	高橋 規矩治郎	漁船(対岸群艘)	1965
2	石井 柏亭	冬の朝(行徳)	1909	12	椿 貞雄	犬吠埼	1948
3	石橋 武治	白鷺のいる風景	1953	13	〃	鋸山から見た房総半島	〃
4	氏家 次郎	海辺	1971	14	寺田 政明	犬吠灯台の見える外川港	1985
5	円城 寺昇	岩	不詳	15	時田 幸彦	犬吠	1991
6	岸田 劉生	霽れたる冬之日	1917	16	林 倭衛	太海	不詳
7	斎藤 捷夫	海辺の光景	1983	17	堀江 正章	耕地整理図	1901~02頃
8	櫻田 精一	太海	1952	18	前嶋 実	九十九里初夏	1988
9	三田 康	冬の犬吠岬	不詳	19	無縁寺 心澄	銚子大新楼上にて	不詳
10	菅谷 元三郎	沼風景	1935				

「日本画の魅力」

いろいろな材料や技法を用いた多様な日本画作品を紹介した。

会 期 平成11年4月1日(木)～5月28日(金) 50日間
 会 場 第2展示室
 展示点数 19点
 入場者数 16,578人

- | | | | | | | | |
|----|-------|--------|------|----|-------|-----------|------|
| 1 | 大田 歳 | 北海 | 1979 | 11 | 高畑 郁子 | メスティーソの女達 | 1977 |
| 2 | 古城 江観 | 山と杉 | 不詳 | 12 | 鶴田 熙 | 夕曛 | 1978 |
| 3 | 後藤 純男 | 山門雨後 | 1974 | 13 | 富取 風堂 | 山桜と民家 | 不詳 |
| 4 | 小宮山 俊 | 沙羅の樹の下 | 1981 | 14 | 東山 魁夷 | 春雪 | 1973 |
| 5 | 酒井 亜人 | 樹 | 1955 | 15 | 松尾 敏男 | 歷程 | 1984 |
| 6 | 篠崎 之男 | 瀧 | 1969 | 16 | 村松 乙彦 | 空 | 1975 |
| 7 | 島多 訥郎 | 群魚と波動 | 1975 | 17 | 横尾 芳月 | 石仏 | 1964 |
| 8 | 島田 良祐 | 海近き村 | 1954 | 18 | 吉岡 堅二 | 濤 | 1939 |
| 9 | 杉原 元人 | 海花 | 1975 | 19 | 若木 山 | 早春 | 1969 |
| 10 | 田岡 春径 | 溪谷 | 1969 | | | | |

「版画の魅力」

木版・銅版・石版・シルクスクリーンなど、様々な技法を駆使した版画作品を紹介した。

会 期 平成11年7月17日(土)～8月29日(日) 38日間
 会 場 第1展示室, 第2展示室
 展示点数 69点
 入場者数 15,330人

1	浅井 忠	従征画稿	1895	36	永瀬 義郎	孔雀の女王	1973
2	〃	彩画初歩	1896	37	〃	つる草のギター	〃
3	〃	月瀬紀行 薫世界	1905	38	浜口 陽三	レダ	1951
4	〃	吉野紀行 錦世界	1908	39	〃	ういきょう	1958
5	〃	新編自在画臨本	1906	40	〃	びんとくるみ	1959
6	〃	訂正浅井自在画臨本	1909	41	〃	白菜	1960
7	池田 満寿夫	出来事	1962	42	〃	ピーマンのある静物	〃
8	〃	飾り窓の中	1963	43	〃	トリコット	1962
9	〃	シンデレラの広告	1966	44	〃	ブラジルの太陽	1971
10	〃	閉ざされた夜のために	〃	45	〃	赤い鉢	〃
11	〃	中間	1967	46	〃	26のさくらんぼ	〃
12	〃	ハートの位置	1968	47	〃	1/4のレモン	1976
13	〃	ウェルカムB	1969	48	〃	ロビーナのさくらんぼ (15枚組)	1981
14	〃	マーガレットの庭	1970	49	〃	てんとう虫 (15枚組)	1984
15	〃	遙かなる通り	〃	50	〃	3匹の蝶 (15枚組)	1985
16	〃	スフィンクス	〃	51	深沢 幸雄	骨疾B	1955
17	池田 良二	Scattered Seeds	1979	52	〃	ダンテ「神曲」<地獄篇>より	
18	〃	Martin	〃			ブルネット・ラティーニ	1956
19	〃	Together again	〃	53	〃	伝説	1966
20	〃	Lack	1980	54	〃	洞窟	〃
21	〃	Nobody knows my mind	1981	55	〃	凍れる歩廊 (ベーリング海峡)	1978
22	石井 柏亭	木場	1914	56	〃	異次元よりの使者	1981
23	〃	佐原	1917	57	〃	陸橋の上を歩く人	1984
24	牛玖 健治	作品 鏡	1980	58	〃	憂愁市街 (迷路)	1985
25	〃	作品発祥	1981	59	〃	ロック	1990
26	〃	ゆうえんち	1983	60	〃	白い抒情の人	1992
27	瑛 九	楽園	1951	61	星 襄一	雪の中で (K)	1960
28	〃	道	1952	62	〃	雪の玉 (A)	1964
29	〃	林の目	1953	63	〃	星座No.42	1967
30	〃	庭園	〃	64	〃	夜明け	1975
31	川瀬 巴水	房州太海	1925	65	〃	青い一例	1976
32	〃	市川の晩秋	1930	66	〃	枝繁る (赤)	1978
33	富田 文雄	森75-20	1975	67	増田 陽一	森の生活	1993
34	〃	接合77-25	1977	68	〃	植物の窓	1994
35	永瀬 義郎	もの想う天使	1973	69	〃	すみれ色の謎	1995

「浅井忠と弟子たち（1）」

日本近代洋画の先駆者・浅井忠のヨーロッパ留学以前の作品と、交流のあった画家や当時教えを受けた弟子たちの作品を紹介した。

会 期 平成11年7月17日(土)～8月29日(日) 38日間
 会 場 第8展示室
 展示点数 21点
 入場者数 15,330人

1	浅井 忠	女の顔 (模写)	1876~78	12	浅井 忠	母の肖像	1899
2	〃	印旛沼	1878頃	13	〃	石膏臨画	不詳
3	〃	沢入駅	1884	14	〃	昼寝 (模写)	〃
4	〃	曳舟通り	1885	15	石井 柏亭	真間の入江 (下図)	1904
5	〃	藁屋根	1887頃	16	〃	冬の朝 (行徳)	1909
6	〃	磐梯山の図	1888	17	石川 欽一郎	赤城淡煙	不詳
7	〃	本と花	1889	18	〃	水辺	〃
8	〃	小丹波村	1893	19	都鳥 英喜	男の顔	1908
9	〃	貔子窩第二軍司令部	1894~95	20	〃	海浜風景	1909
10	〃	金州城壁上	〃	21	松岡 寿	森と小川	1895
11	〃	漁婦	1897				

「フォンタネージとバルビゾン派（1）」

日本近代洋画の歴史に重要な役割を果たしたイタリア人画家アントニオ・フォンタネージとバルビゾン派の主要な画家たちの作品を紹介した。

会 期 平成11年7月17日(土)～8月29日(日) 38日間
 会 場 第8展示室
 展示点数 23点
 入場者数 15,330人

1	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860	13	コロー	フォンテンブローの石切場	1835～40頃
2	〃	牛を追う農婦	1862頃	14	〃	ナポリ近郊の思い出	1860～65頃
3	〃	川辺の二頭の牛	1865頃	15	ディアズ	森の中の農婦	1868
4	〃	森の空地の農婦	〃	16	デュプレ	森のはずれ	1860～69頃
5	〃	木立	1870頃	17	〃	嵐の前	不詳
6	〃	池と樹木	1870～72頃	18	ルソー	バルビゾンの農場	1850～55頃
7	〃	羊飼いの少女	1863～74頃	19	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860～61頃
8	〃	風景1	不詳	20	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1844
9	〃	風景2	〃	21	〃	オワーズ川のほとり	1865
10	ラヴィエ	モレステル風景	1867～95頃	22	ジャック	森の中	1871
11	〃	モレステルの谷	不詳	23	クールベ	雪の中の小鹿	1869頃
12	コロー	フォンテンブローの風景	1830～35頃				

「こどものための展覧会『光の演出・影の効果』」

作者の工夫や努力が想像できる、光⇄もの⇄影の関係を意識した作品を紹介した。

会 期 平成11年7月17日(土)～8月29日(日) 38日間
 会 場 第8展示室
 展示点数 33点
 入場者数 15,330人

〈日本画〉

1 関 主税 晨 1984

2 山本 正道 ヴァージニア 1979
 3 “ エトルリアの壺 1985

〈洋 画〉

1 浅井 忠 瀨家邨天長節祝宴 1894~95
 2 小堀 進 レマン湖畔 1962
 3 “ ロンドンの朝 1964
 4 “ 雨後の山(信州) “
 5 “ 逆光 1974
 6 “ 大穹 “
 7 近藤 南海子 グレーの冬 1992
 8 佐善 明 サンフランシスコ昼下り 1987
 9 高森 登志夫 窓辺の風景 1983
 10 椿 貞雄 夏の風景 1928
 11 中野 庸二 a ripple 1990
 12 松澤 茂雄 海辺の裸婦 1981
 13 トロワイヨン 河辺の道 1860~65

〈版 画〉

1 池田 満寿夫 Something 1 1966
 2 “ 午後 1969
 3 池田 良二 Leaves 1980
 4 “ Varanasi “
 5 “ Tristeza “
 6 浜口 陽三 パリの屋根 1956
 7 “ 魚とさくらんぼ 1958
 8 “ 赤い鉢と黒いさくらんぼ 1966
 9 “ 西瓜 1981
 10 “ 黒い背景のびんと黄色いレモン 1981~89
 11 深沢 幸雄 失われた像 1967
 12 “ 天空を計る 1979
 13 “ 湾頭に開く花 “
 14 “ 顔は迷路 1988
 15 “ 顔の地図 “
 16 “ 小鳥紳士 “

〈彫 刻〉

1 舟越 保武 婦人像 1985

「浅井忠と弟子たち (2)」

日本近代洋画の先駆者・浅井忠のヨーロッパ時代と京都時代の作品と、浅井が京都で指導した弟子たちの作品を紹介した。

会 期	前期	平成11年11月13日(土)～平成12年1月30日(日)	60日間
	後期	平成12年2月1日(火)～4月9日(日)	60日間
会 場	第8展示室		
展示点数	前期	19点	
	後期	19点	
入場者数	前期	34,210人	
	後期	35,568人	

【前 期】

1	浅井 忠	フォンテンブローの夕景	1901
2	〃	男性裸像	〃
3	〃	農婦	1902
4	〃	奈良郊外	1903
5	〃	中沢岩太像	〃
6	足立 源一郎	下加茂森	1907
7	梅原 龍三郎	竹窓読書図	1937
8	小川 千甕	港	不詳
9	加藤 源之助	秋の山(大和初瀬村)	1908
10	国松 桂溪	仏国トルドンヌ	1923頃
11	黒田 重太郎	浴後	1927
12	澤部 清五郎	ハドソン河の朝靄	1912
13	霜鳥 之彦	ロシアの女	1923
14	田中 志奈子	デッサン(棒をもつ裸体)	1905
15	田中 善之助	聖護院の裏	1907頃
16	都鳥 英喜	八瀬の秋	1929
17	長谷川 良雄	晩秋	1909
18	間部 時雄	田園風景	1906
19	安井 曾太郎	熱海附近	1929

【後 期】

1	浅井 忠	フォンテンブローの夕景	1901
2	〃	農婦	1902
3	〃	パリ公園	1900~07
4	〃	京都高等工芸学校の庭	1903
5	〃	帆船の図	1907
6	足立 源一郎	あは田	〃
7	梅原 龍三郎	皇居	1980
8	黒田 重太郎	浴後	1927
9	榊原 一広	収穫	1918
10	澤部 清五郎	パリ風景	1913
11	霜鳥 之彦	緑のスウェーター	1923
12	田中 志奈子	デッサン(大原女)	1905
13	田中 善之助	山門	不詳
14	都鳥 英喜	洛北の早春	1934
15	中林 儼	けしの花	不詳
16	西川 純	保津峡	〃
17	長谷川 良雄	高等工芸学校西裏通り	1907
18	間部 時雄	寒林	不詳
19	安井 曾太郎	熱海附近	1929

「フォンタネージとバルビゾン派（2）」

日本近代洋画の歴史に重要な役割を果たしたイタリア人画家アントニオ・フォンタネージとバルビゾン派の主要な画家たちの作品を紹介した。

会 期 平成11年11月13日(土)～平成12年4月9日(日) 120日間

会 場 第8展示室

展示点数 21点

入場者数 69,778人

1	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860	12	ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
2	〃	牛を追う農婦	1862頃	13	ディアズ	森の中の農婦	1868
3	〃	水汲み場風景	1863頃	14	デュプレ	森のはずれ	1860～69頃
4	〃	川辺の二頭の牛	1865頃	15	〃	嵐の前	不詳
5	〃	森の空地の農婦	〃	16	ジャック	森の中	1871
6	〃	池と樹木	1870～72頃	17	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860～61頃
7	コロー	フォンテンブローの風景	1830～35頃	18	ルソー	バルビゾンの農場	1850～55頃
8	〃	フォンテンブローの石切場	1835～40頃	19	トロワイロン	河辺の道	1860～65頃
9	〃	ナポリ近郊の思い出	1860～65頃	20	ラヴィエ	モレステル風景	1867～95頃
10	クールベ	雪の中の小鹿	1869頃	21	〃	モレステルの谷	不詳
11	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1844				

「書」

詩文のイメージの形象化に着目して、4人の書家の作品を紹介した。

会 期 平成11年11月27日(土)～平成12年1月23日(日) 42日間
 会 場 第2展示室
 展示点数 10点
 入場者数 25,087人

1	小暮 青風	春風馬提曲	1981	6	高澤 南総	墨縁	1979
2	鈴木 方鶴	天真爛漫	1972	7	〃	閉門即是深山 読書随處浄土	1987
3	〃	華下一壺酒	1984	8	千代倉 桜舟	宗左近の詩	1988
4	〃	一笑千山青	〃	9	〃	宗左近詩(縄文太鼓より)	1993
5	高澤 南総	春風秋月	1965	10	〃	愛・焰・夢	1997

「工芸の世界」

様々な技法を駆使して用と美の接点を追求した様々な工芸作品を紹介した。

会 期	前期	平成11年11月27日(土)～平成12年1月30日(日)	48日間
	後期	平成12年2月5日(土)～4月9日(日)	56日間
会 場	第3展示室		
展示点数	前期	17点	
	後期	17点	
入場者数	前期	29,450人	
	後期	34,602人	

【前 期】

〈金 工〉

1	会田 富康	青銅双鳥置物	不詳
2	飯田 美郎	緑陰	1973
3	香取 秀真	笑獅子香炉	不詳
4	〃	筋入花瓶	〃
5	香取 正彦	臙銀玉錯花瓶	1979
6	津田 信夫	子迷家鴨	1938
7	〃	月下妖麗	不詳
8	山室 百世	黄銅線條文花瓶	1936
9	〃	鑄銅朝陽 (パネル)	1951

〈陶 芸〉

1	川上 祥三郎	黄釉鳥紋大花器	1975
2	沼田 一雅	鸚鵡	不詳
3	横山 朝陽	伊羅保茶盃	〃
4	〃	唐津皮鯨平茶盃	〃

〈染 色〉

1	青木 滋芳	洞門	1965
2	〃	寂	1970

〈木 工〉

1	秋山 逸生	菱華文象嵌長手箱	1946
2	〃	蝶貝象嵌箱	1966

【後期】

〈金 工〉

1	大須賀 選	作品63-7 (室内灯ろう)	1963
2	小林 正利	宴野	1996
3	関谷 四郎	銅鉄壺	1974
4	帖佐 美行	香奩と想鳥 (集いの為の酒器セット)	1984
5	信田 洋	透壺	1968
6	蓮田 修吾郎	鐘なるリュウベック	1986

〈陶 芸〉

1	神谷 紀雄	鉄絵銅彩あやめ紋大鉢	1986
2	〃	鉄絵銅彩葡萄紋大鉢	1987
3	宮之原 謙	壁面照明銀河	1931
4	〃	白磁四方百合象嵌大皿	1935頃
5	〃	盛上葡萄唐草壺	1943
6	山本 正年	瑞光	不詳

〈染 色〉

1	上野 斌郎	渦潮染色屏風	不詳
2	深澤 範子	今日も明日も	1983
3	〃	シニョリーア回廊	1990

〈木 工〉

1	中臺 瑞真	桐菱形塗輪花盛器	不詳
---	-------	----------	----

〈ガラス〉

1	藤田 喬平	飾篋朱雀	1978
---	-------	------	------

「季節の表情」

季節感を表現した風景画を、前期は日本画、後期は洋画と版画で紹介した。

会 期	前期	平成11年11月27日(土)～平成12年1月23日(日)	42日間
	後期	平成12年1月29日(土)～4月16日(日)	68日間
会 場	第1展示室		
展示点数	前期	15点	
	後期	21点	
入場者数	前期	27,076人	
	後期	38,086人	

【前期】

1	酒井 亜人	垣根	1950
2	〃	山	1951
3	〃	太海	1953
4	田中 路人	豊漁	1982
5	鶴田 熙	夕曛	1978
6	富取 風堂	葛西風景	1937
7	〃	漁村の初夏	1942
8	〃	花	1957
9	東山 魁夷	春雪	1973
10	横尾 芳月	鏡獅子	1981
11	〃	春風	1986
12	〃	新春	不詳
13	吉岡 堅二	濤	1939
14	若木 山	三篇刈る信濃の女	1955
15	〃	湧水	1964

【後期】

〈洋画〉			
1	石井 光楓	初霜	1964
2	石橋 武治	白鷺のいる風景	1953
3	〃	早春	1954
4	〃	水辺初夏	不詳
5	伊原 宇三郎	曇り日の丘	〃
6	王 軍	蘇州水郷	1992
7	斎藤 捷夫	海辺の光景	1983
8	櫻田 精一	冬の並木道	1965
9	鶴田 吾郎	富士山	1951
10	〃	鷹の巣の雪山	1954
11	〃	谷川岳	1959
12	〃	小鳥たち	1965
13	原 勝郎	畑	不詳
14	藤井 外喜雄	シャルトル	1975
15	溝口 七生	高原の樹々	1975
16	吉田 博	雨後の穂高山	1927頃
17	ワーグマン	七里ヶ浜風景	不詳

〈版画〉

1	東山 魁夷	リトグラフィ集<冬の詩> [枯野]	1979
2	〃	〃 [冬樹]	〃
3	〃	〃 [湖岸]	〃
4	〃	濤声	1994

「彫刻」

作者の発想と主題，素材と技法，置かれた環境など，様々な視点で鑑賞することのできる彫刻作品を紹介した。

会 期 平成12年1月12日(水)～4月16日(火) 83日間

会 場 第7展示室

展示点数 12点

入場者数 42,141人

1	池田 丈一	ひねくれた正四面体	1981	7	伴 正史	人〈無言〉	1997
2	浦野 八重子	生きるということ	1987	8	堀川 恭	丸いフォルム	1975
3	島田 勝吾	人間家族・妻の肖像	1969	9	本郷 新	裸婦	1952
4	鈴木 章	七面鳥	1932	10	三木 俊治	北国からの男	1973
5	鈴木 徹	馬と娘の恋物語(3部作-秋・冬・早春-)	1984	11	六崎 敏光	暖流	1984
6	長谷川 昂	花の国の母神	1961	12	綿引 司郎	遙	1970

「動物の表現」

身近な動物たちをモチーフにした様々な分野の作品を紹介した。

会 期 平成12年1月29日(土)～4月16日(火) 68日間
 会 場 第2展示室
 展示点数 35点
 入場者数 38,086人

〈日本画〉

1	立石 春美	狗	1967
2	富取 風堂	厩舎	1938
3	〃	仔馬	1949
4	〃	親子猿	1964
5	〃	河畔	1965

〈洋画〉

1	鬨 嘔	INSECTS	1975
2	〃	BIRDS	〃
3	麻生 蓉子	出を待つ	1978
4	板倉 鼎	金魚と魚	1928
5	〃	金魚	〃
6	久保木 彦	夢の詩	1978
7	佐善 明	New York Letter	1984
8	羽生 智樹	動く気配の鳥	1981

〈彫刻〉

1	澤田 志功	森は観つめる	1995
2	高村 光太郎	猪	1905頃
3	〃	野兎の首	1945~52

〈工芸〉

1	浅井 忠	茶器(猿蟹合戦図)	1902~07
2	上野 斌郎	草花図染色屏風	不詳
3	大須賀 喬	昆蟲文飾皿	1986
4	香取 秀真	鳩香炉	1949
5	〃	瑞鳥飾三足鑪	不詳
6	津田 永寿	雪の朝	1989
7	津田 信夫	胡孫遊目	1935
8	〃	猿	1937
9	〃	犬	不詳
10	〃	兎	〃
11	二口 志保子	翔ける	1964
12	堀口 光彦	安眠装置	1986
13	山室 百世	鑄銅進駐置物	1941

〈版画〉

1	浜口 陽三	うさぎ	1955
2	〃	てんとう虫	1960
3	〃	2匹のてんとう虫	1975
4	〃	二匹の蝶	1977
5	〃	てんとう虫(7枚組)	1984
6	〃	3匹の蝶	1985

特別展

ヒューストン美術館展
ルネサンスからセザンヌ、マティスまで

会 期 平成11年6月5日(土)
～7月11日(日) 32日間
展示点数 72点
入場者数 18,292人

今日のヨーロッパ絵画はルネサンス時代に基礎ができたといわれ、キリスト教的題材を扱いながらその表現によって人間に対する信頼を回復したルネサンス絵画から、しだいに宗教から離れた絵画が多数生まれた。

この特別展では、ヒューストン美術館の広範なコレクションのうち、14世紀後半のイタリアルネサンス、北方ルネサンスの祭壇画から、バロック、ロココ、ロマン主義、19世紀の印象派を経て20世紀に至る珠玉の作品72点を選び、ヨーロッパ絵画の豊穡な流れを概観した。



I. 洋 画

1 シエナ派シュトラウスの聖母の画家	聖母子	1340~1350頃
2 シュトラウスの聖母の画家	聖母子	1395~1400頃
3 黄金門の画家	黄金門の前のヨアキムとアンナの出会い	1370~1390頃
4 フラ・アンジェリコ	金塊を遠ざける聖アントニウス	1430年代
5 ジョヴァンニ・ディ・パオロ	狼に手を食いちぎられた子を救う聖クララ	1455~1460頃
6 イタリア(フェラーラ派), 15世紀第3四半世紀	ソロモン王とシバの女王の会見	1470~1473頃
7 イタリア(シエナ派) 14世紀後半	修道士に説教する聖アントニウス(左) 聖母と聖ヨハネを伴った磔刑図(中央) 聖アントニウスとケンタウロス(右)	
8 ジョヴァンニ・パッティスタ・ベルトゥッチ	福音書記者聖ヨハネ (右)	1512頃~1516
9 "	聖トマス・アキナス(左)	"
10 バルトロメオ・ヴェネト	男の肖像	1512 (?)
11 ヴィンチェンツォ・カテーナ	聖母子と洗礼者聖ヨハネ, 聖ヨセフ	1525頃
12 ヴェロネーゼと工房	天使に支えられ、フランチェスコ修道会士にあらめられ死せるキリスト	1586~1587頃
13 ドメニコ・ティントレット	クロリндаに洗礼を施すタンクレディ	1586~1600頃
14 セバステアーノ・デル・ピオンボ	アントン・フランチェスコ・デリ・アルビッツィ	1525
15 ミケーレ・トジーニ	聖マグダラのマリア	1560年代
16 イタリア(フィレンツェ派), 16世紀第3四半世紀	若い女性の肖像	"
17 ロヒール・ファン・デル・ウェイデン	聖母子	1454以降
18 ハンス・メモリング	年老いた女性の肖像	1468~1470
19 ルカス・クラーナハ(父)	自害するルクレティア	1529頃
20 ピーテル・ブリュゲル(子)	東方三博士の礼拝	1600~1610頃
21 オラツィオ・ジェンティレスキ	女預言者に扮した若い女性の肖像	1620頃
22 バルトロメオ・カヴァロツィ	聖母子と天使たち	"
23 マッティア・プレーティ	父の目を癒すトビアス	1630~1640頃
24 ヘンドリック・テルブリュッヘン	バグパイプを吹く男	1626頃

25	ヴァランタン・ドゥ・ボーローニュ	使徒書簡を執筆する聖パウロ	1620頃
26	シモン・ヴーエ	聖セバステリアヌス	〃
27	フィリップ・ド・シャンパーニュ	改悛するマグダラのマリア	1648
28	クロード・ロラン	岩のアーチと川のある風景	1628~1630頃
29	ヤン・ファン・ホイエン	ドルトレヒトの北東からの眺め	1647
30	ヤーコプ・ファン・ライスダール	穀物畑のある風景	1670年代頃
31	アドリアーン・ヤンスゾーン・ファン・オスターデ	酒飲みと泣く子供のいる室内	1634
32	ヤン・ステーン	第12夜の祝祭	1670頃
33	フェルディナント・ボル	鏡台を見る女性	1645頃
34	フランス・ハルス	初老の女性の肖像	1650
35	アンソニー・ヴァン・ダイク	選帝侯シャルル・ルイ	1637
36	ルカ・ジョルダーノ	「賢明」の寓意	1682頃
37	ファン・バン・デル・アメン・イ・レオン	果物とガラス容器のある静物	1626
38	クリストフォロ・ムナーリ	楽器のある静物	1710~1715頃
39	カナレット	ヴェネツィアのカナル・グランデ(大運河)の入り口	1730頃
40	〃	ヴェネツィアのリアルト橋付近のカナル・グランデ(大運河)	〃
41	ベルナルド・ベロット	ピルナの市場	1764頃
42	フランチェスコ・ガアルディ	ヴェネツィアのサンタ・マリア・デラ・サルテ聖堂と税関局	1783頃
43	ジョバンニ・パオロ・パニーニ	パンテオンと古代ローマの遺跡	1737
44	ジョヴァンニ・パッティスタ・ティエポロ	ユノとルナ	1765頃
45	フランソワ・ブーシェ	収穫する天使たち	1734頃
46	ニコラ・ランクレ	とらえられた小鳥	1730頃
47	ジャン＝バティスト・グルーズ	少年の肖像	1760頃
48	ジャン＝シメオン・シャルダン	良き教育	1753頃
49	ポンペオ・パトローニ	ウィリアム・ファーマー	1758
50	アンゲリカ・カウフマン	ナクソス島でテーセウスに見捨てられたアリアドネ	1774
51	ジョゼフ・ライト	川のあるイタリア山岳風景	1790頃
52	トマス・ゲーンズバラ	帆船と牛のいる海岸風景	1781~1782頃
53	ジョージ・モーランド	レスタチャー、エンダビーの眺め	1792
54	フランシスコ・デ・ゴヤ	金色の魚のある静物	1808~1812
55	テオドール・シャセリオー	羊を伴ったコンスタンティーヌの女性と少女	1849
56	オラース・ヴェルネ	ユディットとホロフェルネス	1830頃
57	ラジェーヌ・ドラクロワ	アンドロメダ	1852
58	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	冥界からエウリュディケを救うオルフェウス	1861
59	テオドール・ルソー	旧バ＝ブレオーの檜の大木	1864
60	トマ・クチュール	仮面舞踏会の後の決闘	1857頃
61	ラジェーヌ・イザベイ	ノルマンディー海岸の眺め	1852
62	シャルル＝フランソワ・ドービニー	オプトヴォス谷の水門	1854
63	ギュスターヴ・クールベ	海景	1865頃
64	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	花瓶の菊	1871頃
65	オーギュスト・ルノワール	花束のある静物	1871
66	ポール・セザンヌ	青い服を着たセザンヌ夫人	1888~1890
67	ポール・セリュジエ	ル・プルデュの風景	1890
68	モーリス・ド・ヴラマンク	シャトゥーの遊覧船	1906頃
69	アンリ・マティス	オルガ・メルソン	1911
70	アンドレ・ドラン	カーニュ	1910
71	アルベール・グレーズ	フロックスと女性	〃
72	ピート・モンドリアン	灰色と明るい茶色のコンポジション	1918

企画展

「星 襄一展」

会 期 平成11年 9月4日(土)～
10月11日(月) 33日間
展示点数 143点
入場者数 13,862人

国内外で活躍した版画家・星襄一(1913～1979)の没後20年を記念し、八千代市の協力のもと星の初期から晩年に至る作品約130点及び版木等関連資料もあわせて展示し、星の版画芸術の魅力を幅広く紹介した。



I. 作 品		制作年		制作年	
No.	作 品 名				
1	月の庭	1956	28	首飾り (B)	1964
2	春を待つ	1957	29	〃 (D)	〃
3	雪原	〃	30	刺青 (B)	〃
4	雪の卓	1958	31	※星座 2 番 大	1965
5	雪の像	〃	32	〃 4 番	〃
6	森のはずれ (A)	〃	33	〃 11番	〃
7	まる	〃	34	〃 14番	〃
8	森の中	〃	35	〃 15番	〃
9	雪の山	〃	36	〃 20番	〃
10	童女	〃	37	ブランコ星座26番	1966
11	水 (B)	1959	38	朝の星	〃
12	水	〃	39	星座37番 (作品D)	1967
13	ひかり	1960	40	〃 42番	〃
14	雪の中で (B)	〃	41	蝶 星座45番	〃
15	〃 (K)	〃	42	南十字C	〃
16	空	1961	43	花 (けし)	1968
17	撃	1962	44	銀河 (F) 大	〃
18	六月 (麦秋)	〃	45	青い夜 (A)	1969
19	十月	〃	46	かんむり座 (A)	〃
20	遥	〃	47	さそり座 (銀河G) 小	1970
21	燭	1963	48	※風景 (A)	〃
22	華 (B)	〃	49	銀河ラブソディ	〃
23	笛の音	1964	50	青い鳥 大	〃
24	雪の玉 (A) 小	〃	51	森に棲む月 大	〃
25	雪の中で (1) 小	〃	52	夕の光	〃
26	〃 (2) 小	〃	53	朝の光	〃
27	〃 (3) 小	〃	54	地平 C	1971
			55	赤い木 (小)	〃
			56	※星の森 (大)	〃

57	星の森 (小)	1971	95	木の風景 (E)	1975
58	夕日	"	96	梢	"
59	風景 (B)	"	97	樹	"
60	赤い木の夕日 (大)	"	98	若木	"
61	赤い木 (大)	"	99	月 (A)	"
62	白い林	"	100	林 (黄)	"
63	※赤い地平線	1972	101	銀	"
64	青い樹	"	102	光る木	"
65	赤い野	"	103	霧	"
66	赤い枝	1973	104	夜明け	"
67	青い林	"	105	大樹 (赤)	1976
68	朝	"	106	高い梢 (A)	"
69	幹と枝	"	107	丘の雑木	"
70	林 (青)	"	108	※王の樹	"
71	藪	"	109	朝風	"
72	木の風景 (A)	"	110	朝の木	"
73	" (B) 風	"	111	林	"
74	樹林-あさ	"	112	林の中	"
75	" -ひる	"	113	青い一列	"
76	樹林-ゆうべ	"	114	赤い一列	"
77	白い木	1974	115	梢 (星)	"
78	三本の木と赤い空	"	116	風景 (D)	"
79	並ぶ木	"	117	月と木	"
80	樹	"	118	星木立	1977
81	" (白)	"	119	こぶし	"
82	" (黒)	"	120	暮色	"
83	" (赤)	"	121	冬樹	"
84	白い木 (A)	"	122	夏	"
85	" (B)	"	123	大樹早春	"
86	木の風景 (D)	"	124	朝	"
87	藪	"	125	枝繁る (赤)	1978
88	※大樹	"	126	枯草の風景 (A)	"
89	木 (ひる)	"	127	※ " (B)	"
90	" (よる)	"	128	秋光	"
91	野	"	129	※野の木 (A)	"
92	木立	"	130	杉 (朝)	"
93	一本の赤い木	"	131	※陽 (林)	"
94	老樹	1975	132	冬の日 (A)	1979

II. 資料

1	大樹 (赤)	額装版木 (主版)
2	王の樹	" (")
3	野の木 (A)	刷り工程 版木・版画28点
4	赤い木	下絵
5	木の風景 A	"
6	樹	"

7	制作途中の版木	版木
8	彫刻刀7本	愛用品
9	革製サック1個	"
10	バレン	"
11	肖像写真	パネル張り

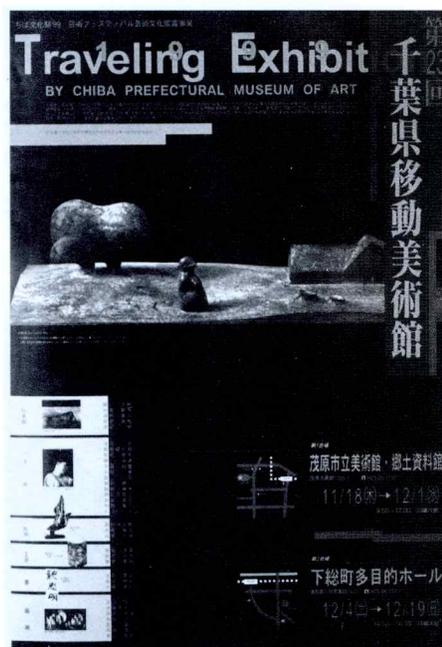
※印の作品は、千葉県立美術館所蔵作品

企画展

第23回千葉県移動美術館

会場	1 茂原市立美術館・郷土資料館
	2 下総町多目的ホール
会期	1 平成11年11月18日(木)～ 12月1日(水)
	2 平成11年12月4日(土)～ 12月19日(日)
展示点数	38点
入場者数	1 1,708人
	2 1,257人

本館の収蔵作品を中心に、第51回千葉県美術展覧会(県展)の受賞作品を一部加えた移動展覧会を、上記の期間及び会場で開催し、美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。



<日本画>

1 関 主税	滝	不詳
2 松尾 敏男	原野	1971
3 酒井 亜人	冬	1937
4 島田 良祐	海近き村	1954
5 渡辺 学	下総の海女	1976

<洋画>

1 浅井 忠	漁婦	1897
2 梅原龍三郎	純子像	1968
3 岸田 劉生	霽れたる冬之日	1917
4 椿 貞雄	犬吠埼	1948
5 中西 利雄	人物	1936
6 小堀 進	南欧の丘	1962
7 原 三郎	廃船	1977
8 櫻田 精一	太海	不詳
9 篠崎 輝夫	敦煌莫高窟	1996
10 伊牟田経正	悲劇	1977
11 斉藤 寅彦	時の跡	1983
12 中野 庸二	a ripple	1990
13 ギュスターヴ・ケールベ	眠る人	1853

<彫刻>

1 高村光太郎	手	1918
2 舟越 保武	婦人像	1985
3 山本 正道	ヴァージニア	1979

<工芸>

1 香取 秀真	烏銅鳳凰香炉	1911
2 鈴木 治平	湿原の詩	1985
3 藤田 喬平	飾篭・しだれ櫻	〃

<書>

1 浅見 喜舟	卜居	1980
2 金子 聰松	視思明	1973
3 小暮 青風	天颯	1966

<版画>

1 浜口 陽三	てんとう虫	1984
2 池田満寿夫	Something 1	1979
3 深沢 幸雄	顔は迷路	1988
4 池田 良二	Scattered Seeds	1979
5 星 襄一	枝繁る(赤)	1978
6 増田 陽一	すみれ色の謎	1995
7 東山 魁夷	湖岸	1979

第51回千葉県美術展(県展) 出品作品

1 竹中みどり	向日葵(日本画)	1999
2 大川 正雄	漁港渚日(洋画)	〃
3 唐木 尚勇	鉄釉山帰来文鉢(陶芸)	〃
4 浅見 百意	唐詩(書)	〃

普及事業

美術講演会は、特別展「ヒューストン美術館展」に併せて開催した。

さらに、企画展「星裏一展」会期中に、ミュージアムコンサート「弦楽四重奏による名曲の調べ」を開催した。

実技講座は、彫刻（塑造）、陶芸、版画の3種3講座（延26日）を開催した。

図書は、170冊収集した。現在5,338冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

そのほか、友の会事業による実技講座4種12講座（延59日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（12大学15人）などに協力した。

■ 美術講演会

美術に対する関心や理解を一層深めるため、特別展「ヒューストン美術館展」に併せて講演会を実施した。

特別展展覧作品のスライドを交えながら、貴重なルネサンス期の作品などを非常にわかりやすく、その時代背景も含めながら進められた。

また、近代絵画に至っても実際の作品をパロディー化した作品を紹介しながら、たいへん興味深い作品鑑賞のポイントを理解できた講演会であった。

6月19日（土）

「伝統と創造—ルネサンスから近代へ—」

千足伸行氏（成城大学教授）

参加者数 135人



■ ミュージアムコンサート

企画展「星裏一展」の開催に併せ、「弦楽四重奏による名曲の調べ」と題して、9月25日、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーによりコンサートを行った。

バルトーク（ルーマニア民族舞曲）やバッハ（G線上のアリア）などのクラシックの名曲や、ジョプリン（ジ・エンターティナー）などの映画音楽を含む全11曲を演奏し、好評を得た。

〈演奏者・司会〉

本庄篤子（ヴァイオリン）／荒井直子（ヴァイオリン）／吉鶴洋一（ヴィオラ）／舘野英司（チェロ）／上田誠（コントラバス）／中里かほり（司会）

参加者数 192人



■ 実技講座

(1) 陶芸講座

期 日 平成11年5月21日(金)・22(土)・23日(日)・6月18日(金)・19日(土)・7月9日(金)

(6日間／講師の指導日数は4日間)

講 師 古瀬利治氏

受講者数 30人

内 容 焼成・絵付け・薬掛けなどの行程から用具の取り扱いや陶芸に関する基本的な技法を学習した。

(2) 彫刻講座

期 日 平成11年7月21日(水)・22日(木)・23日(金)・27日(火)・28日(水)・30日(金)・31日(土)・8月1日(日)・4日(水)・5日(木)

(10日間／講師の指導日数は6日間)

講 師 福永巨氏

受講者数 21人

内 容 塑造の学習を通して、立体作品の制作行程を理解し、幅広い表現方法を学習した。

(3) 版画講座

期 日 平成11年10月20日(水)・21日(木)・22日(金)・23日(土)・28日(木)・29日(金)・30日(土)・31日(日)・11月2日(火)・4日(木)

(10日間／講師の指導日数は5日間)

講 師 上野適氏

受講者数 25人

内 容 単色版画や多色版画などの木版の学習を通して、凸版の基礎的な技法と版の幅広い表現方法を学習した。

■ 第4回こども写生会

次代を担う子ども達に、創作の喜びを体験してもらい、美術を愛好する心情と豊かな情操を養うことを目的とし、美術館とのふれあいを通して美術館活動への理解を深めてもらうため、写生会と展示による「こども写生会」を開催した。

本年度は、この事業の基本的コンセプトをもう一度見直すことからスタートをし、昨年度のような審査方式による展示会から、審査なしのオープン形式の展示会へ移行した。また、テーマ性を持ったイベントとして確立するために、「夏休みの挑戦は、美術館からはじめよう」という本事業の開催テーマを設置し、海に隣接する美術館らしく「海の日」に写生会を実施することにした。

開催に至っては、さくらクレパスの協賛と千葉港湾事務所の協力を頂き、当日の運営に寄与してくれたことも重要であった。

展示会については、「こどもの手による・こどものための展覧会」というテーマを掲げ、美術館近隣の中学校の生徒の協力を得、展示会場のデコレーション(会場装飾)を行った。

「海」をモチーフにした装飾を進めることにより、中学生の持つ豊かな感性(構合力)と、小学生の描いた自由に屈託のない作品とが合体した、非常に興味深い展示会となった。

また今回の企画が、来年度より新たに企画する、こどもを対象にした造形ワークショップへの手がかりとなった。

写 生 会 7月20日(火)海の日

参加校41校(内千葉市内19校)

参加者数 88人

写 生 会 展 8月17日(火)～22日(日)

会場装飾担当校

千葉市立新宿中学校

有志2年生 14人参加

■ 1日学芸員体験学習

平成14年度より施行される新指導要領の趣旨を鑑み、本館と学校教育との連携を密にし、子どもたちの「生きる力」を育むとともに、両者が一体となって子どもたちの造形教育に取り組む事業として開催した。

当初は、学校側から「職業体験学習」と称した内容で、美術館の仕事を体験したいという要請からスタートしたが、本年度からは、学芸員という職業を理解するのみの体験学習からの脱却を図った。

より美術館らしい体験学習を味わってもらうために、2つの新しい内容を盛り込んだ。

THE体験①

【君も美術評論家！

野外彫刻から何かを感じよう】

本館の野外に設置してある18体の彫刻を鑑賞し、一番気になった（興味があった）作品を見つけだし、自分がその作者になったつもりで、その作品への「想い」をメッセージカードに書き留めるといった鑑賞活動を盛り込んだ体験学習を実施。さらに、一人一人の考えを尊重する意味で「作品鑑賞発表会」を行い、お互いの意見を理解しあう活動も取り入れた。

最終的には、作家本人からも各個人が書き留めた内容に対するメッセージを頂くことができ、バリエーションのある充実した体験学習となった。

THA体験②

【日本の伝統を学習しよう！

－作品の扱い方体験－

「美術工芸品の扱い方」を中心にした内容で進め、学校教育では体験できない「楽しく」「内容の濃い」「ためになる」学習を取り入れた。

体験学習に使用した工芸品は立体と平面の代表として、壺・掛け軸の二つに絞りこみ、各工芸品の扱い方について実際に取り組みさせた。

伝統的な体験が子ども達にどれだけ受け入れられるかが心配であったが、想像以上に熱心に取り組み、物を粗末に扱う傾向にある現代において、「物への愛着」というイメージが子ども達に伝わったことが一番の成果でもあった。

■ 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、情報誌などにより、美術情報を提供した。

なお、11年度の収蔵図書については75冊を購入し、95冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

分類別図書数

(平成12年3月31日現在)

区 分	平成10年度まで	平成11年度	計
美術総記	1,608	55	1,663
絵画	1,532	13	1,545
彫刻	252	2	254
工芸	374	11	385
書	164	5	169
版画	145	2	147
デザイン・建築	84	5	89
写真・映像	181	13	194
その他	50	0	50
雑誌(合冊・復刻)	357	0	357
一般図書	421	64	485
合 計	5,168	170	5,338

区 分	平成10年度まで	平成11年度	計
購入図書	2,867	75	2,942
寄贈図書	2,301	95	2,396
合 計	5,168	170	5,338

(展覧会図録を除く)

■ 活動協力

□千葉県立美術館友の会

1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気の中かで教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組織

- (1) 会員数 個人会員507人 賛助会員3人
- (2) 役員 会長1人 副会長3人
監事2人 理事若干名

3. 事業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。
各1,000部印刷し、会員に配付した。
- (2) 第23回葉美会展の開催
会期 平成11年7月27日(火)
～8月1日(日)
出品者38人 展示点数 70点
- (3) 秋の美術鑑賞の旅
美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
1. 日時 10月7日(木)
 2. 行先 古賀政男音楽博物館
調布市武者小路実篤記念館
青梅市立美術館
吉川英治記念館
 3. 参加者数 45人
- (4) 館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売、実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
- (5) その他
テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

4. 平成11年度 友の会実技講座

洋画入門講座 (1)

期日 5月6(木)・7(金)・8(土)・9(日)
11(火)・12日(水) (6日間)
講師 羽生智樹氏
受講者数 37人

洋画入門講座 (2)

期日 5月28(金)・29(土)・30(日)
6月1(火)・2(水)・3(木) (6日間)
講師 渡辺晋氏
受講者数 51人

洋画入門講座 (3)

期日 6月19(土)・20(日)・26(土)・27(日)
7月3(土)・4(日) (6日間)
講師 池田敏男氏
受講者数 23人

洋画入門講座 (4)

期日 8月18(水)・19(木)・20(金)・24(火)
26(木)・28(土) (6日間)
講師 根岸茂行氏
受講者数 40人

洋画入門講座 (5)

期日 9月7(火)・8(水)・9(木) (3日間)
講師 松澤茂雄氏
受講者数 40人

洋画入門講座 (6)

期日 9月17(金)・18(土)・19(日) (3日間)
講師 松澤茂雄氏
受講者数 55人

洋画入門講座 (7)

期日 11月18(木)・19(金)・20(土)・21(日)
24(水)・25(木) (6日間)
講師 根岸茂行氏
受講者数 39人

洋画入門講座 (8)

期日 12月7(火)・9(木)・11(土)・12(日)
14(火)・16(木) (6日間)
講師 根岸茂行氏
受講者数 38人

日本画入門講座

期日 11月5(金)・6(土)・10(水)・11(木)
12(金)・13(土) (6日間)
講師 齊藤惇氏
受講者数 18人

書道入門講座

期日 11月30(火)・12月1(水)・2(木)
(3日間)
講師 福田丞洲氏
受講者数 8人

デッサン入門講座 (1)

期日 7月29(木)・30(金)・8月1(日)
3(火) (4日間)
講師 御園正男氏
受講者数 21人

デッサン入門講座 (2)

期 日 2月29(火)・3月2(木)・4(土)
5(日) (4日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 43人

□博物館実習

各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の学生を次のとおり受け入れた。

平成11年7月21日(水)～7月27日(火)

(日曜日を除く6日間)

跡見学園女子大学1人、学習院大学2人、金沢美術工芸大学1人、共立女子大学1人、トキワ松学園横浜美術短期大学1人、成蹊大学1人、多摩美術大学1人、千葉経済大学1人、千葉大学2人、筑波大学1人、東京造形大学2人、和光大学1人

(12大学, 15人)

□ 平成11年度貸出資料一覧

作家名	作品名	展覧会名	会期・展示会場	申請者
梅原龍三郎 梅原龍三郎 安井曾太郎	竹窓読書図 皇居 熱海附近	井原線開業記念 梅原龍三郎・安井曾太郎展	11.4/17～5/30 井原市立田中美術館	井原市立田中美術館
椿貞雄	牡丹	—近代美術の精華— 日本美術院創立100周年記念展 —岡山展—	11.4/23～5/23 岡山県立美術館	岡山県立美術館 山陽新聞社 財団法人日本美術院
椿貞雄 富取風堂	牡丹 朝光	—近代美術の精華— 日本美術院創立100周年記念展 —名古屋展—	11.6/17～7/11 松坂屋美術館	松坂屋美術館 中日新聞社 財団法人日本美術院
コラン	田園詩	生誕150周年 ラファエル・コラン展	11.9/10～10/24 静岡県立美術館 11.10/30～11/28 福岡市美術館 11.12/4～12.1/16 島根県立美術館 12.2/9～3/5 千葉そごう美術館 12.4/10～5/7 愛媛県美術館 12.5/27～7/2 東京ステーションギャラリー	静岡県立美術館 福岡市美術館 島根県立美術館 千葉そごう美術館 愛媛県美術館 東京ステーションギャラリー
小山周次	ぼら 花菖蒲 三宝柑 林檎と柿	小山周次展	11.5/22～6/13 ギャラリー82	財団法人八十二文化財団
吉岡堅二	馬	20世紀日本美術再見-Ⅲ 1930年代	11.9/4～11/7 三重県立美術館	三重県立美術館
石井柏亭	病児 舟に居る人	開館記念展Ⅲ 島根の美術	11.9/10～10/3 島根県立美術館	島根県立美術館
浅井忠	薬屋根	東アジア／絵画の近代 —油画の誕生とその展開—	11.9/12～10/20 宇都宮美術館 11.10/31～12/19 福岡アジア美術館	静岡県立美術館 兵庫県立近代美術館 徳島県立近代美術館 宇都宮美術館 福岡市美術館 美術館連絡協議会
東山魁夷	秋深	東山魁夷展	11.9/11～10/24 茨城県近代美術館	茨城県近代美術館 日本経済新聞社
浅井忠	絵皿 図案画稿(煙草入れ) 図案画稿(花木) 図案画稿(花瓶2種) 図案画稿(戸棚図)	日本の前衛	11.11/23～12.1/23 京都国立近代美術館 12.2/5～3/22 水戸芸術館現代美術ギャラリー	京都国立近代美術館
後藤純男 大下藤次郎 石井柏亭 椿貞雄	山門雨後 紫陽花 晩春行楽図 春夏秋冬図屏風(春)	日本の歳事—春・夏—	11.10/6～11/7 式年遷宮記念神宮美術館	式年遷宮記念神宮美術館
小笠原豊 浅井忠 浅井忠 浅井忠	中井八重子像 老母像 新編自在西臨本 二十日会日誌(第1巻)	京都洋画のあけぼの	11.9/25～10/24 京都文化博物館	京都文化博物館
浅井忠	田植之図 金州城外之図 もろこしと鳳仙花 琵琶法師	子規と写生—近代文人の絵画世界	11.10/29～11/28 愛媛県美術館	愛媛県美術館
小暮青風	修羅 万葉集東歌 漂白の思い —閑人 天地茫茫 無何有	小暮青風遺墨展	11.10/30～11/3 上野の森美術館	松声会 財団法人日本美術協会 上野の森美術館
津田信夫	海 —点玲瓏 変貌七色	アール・デコと東洋	12.1/8～3/21 東京都庭園美術館	東京都庭園美術館
山谷鉄一	風	卒寿記念 山谷鉄一油絵展	11.11/2～11/7 千葉市美術館ギャラリー	山谷鉄一
五百城文哉	日光	五百城文哉展	12.2/12～3/26 水戸市立博物館 12.4/15～5/21 小杉放菴記念日光美術館	水戸市立博物館 小杉放菴記念日光美術館
香取正彦	臘銀玉錯花瓶 金銅魚籃観音 金銅童形聖徳太子像 鍍銅四神文四方花瓶 臘銀黄銅鍍分六方口花瓶 玉装花瓶 銅花瓶 鍍銅花瓶 臘銀花瓶	佐倉・房総ゆかりの作家たち —生誕100年 香取正彦展—	12.3/4～4/9 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館

調査・収集事業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、日本画12点、洋画21点、工芸14点、書11点、版画5点を収集した。

■ 収蔵資料 (寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示、)
 (単位はcm、番号に○印のあるものは購入。)

<日本画>

- | | |
|----------|--|
| 1 石井林響 | 湖山清秋
1927
紙・着彩 60.8×83.3 |
| 2 浦田正夫 | 外房早春
1935頃
絹・着彩 85×125 |
| ③ 小幡春生 | 千手観音 (二十八部像)
1970頃
絹・着彩 138×88.5 |
| ④ 小幡春生 | 水郷風景
1980頃
絹・着彩 65.5×47 |
| 5 小幡春生 | 龍上観音
1980頃
絹・着彩 130×76.5 |
| 6 杉原元人 | 更
1993
紙・着彩 152×217 |
| 7 杉原元人 | 韻
1994
紙・着彩 215×179 |
| 8 杉原元人 | 山氣
1998
紙・着彩 239×144 |
| 9 杉原笛邦 | 南総九十九谷
1957
紙・着彩 137×183 |
| 10 杉原笛邦 | 水辺
1964
紙・着彩 147×216 |
| 11 牧野三生郎 | 三十三間堂
1966
紙・着彩 185×155 |
| 12 牧野三生郎 | 比叡定光院
1968
紙・着彩 168.5×151.5 |

<洋画>

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1 青木純子 | 静物
1960
キャンバス・油彩 112.1×145.5 |
|--------|------------------------------------|

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| ② 青木純子 | 幽と明
1977
キャンバス・油彩 130.3×97 |
| 3 青木純子 | 静
1989
キャンバス・油彩 130.3×89.4 |
| ④ 秋元 恒 | 横臥裸婦
1947
キャンバス・油彩 60.6×91 |
| 5 秋元 恒 | 切通し
1969
キャンバス・油彩 91×72.7 |
| 6 秋元 恒 | 杉
1976
キャンバス・油彩 90.6×72.6 |
| 7 秋元 恒 | 上貝塚の丘(II)
1995
キャンバス・油彩 72.7×91 |
| 8 石橋武治 | 雨の海
1957
キャンバス・油彩 91×117 |
| 9 石橋武治 | 足をふく女
1958
キャンバス・油彩 137×90.8 |
| 10 石橋武治 | 高原の朝
1961
キャンバス・油彩 91.5×117 |
| 11 石橋武治 | 水辺の家
1963
キャンバス・油彩 91×117 |
| 12 石橋武治 | 湖畔
1964
キャンバス・油彩 65.5×91 |
| 13 石橋武治 | 利根川
キャンバス・油彩 73×91 |
| 14 田坂 乾 | カルポーの泉
1978
紙・水彩 31.7×41.5 |
| 15 田坂 乾 | シュブルース
1983
紙・水彩 32.2×40.9 |

16 田坂 乾	ニースの港 1983 紙・水彩 32.1×46.1	⑨ 松原利男	藍形染着物 浜辺文 1993 絹・染色 丈159×衿67
17 田坂 乾	ブリューージュ 1983 紙・水彩 31.5×41	10 松原利男	長板中形 蛤に海草文 1997 綿・染色 丈166×衿69
18 田坂 乾	ヴェネツィア 1983 紙・水彩 34.1×45.8	11 松原利男	長板中形 鯉文 1998 綿・染色 幅36
19 山谷 鉄一	遊弋(魚と遊ぶ海女) 1999 キャンバス・油彩 97×130.3	12 深山美峰	四君子 1955頃 鼈甲・漆 14.5×31.5
20 山倉克己	高原暮色 1973 紙・水彩 95×129	13 深山美峰	襲獲 1965頃 木・漆 14.8×31
21 山倉克己	田園春めく 1999 紙・水彩 113×146	14 深山美峰	飛鶴 1975頃 木・漆 14.3×32
<工芸>		<書>	
① 石井康治	環象文器 1993 ガラス 高33×径28.5	1 浅見錦龍	良寛詩 1999 紙・墨 135×280
② 石井康治	彩花文器 1995 ガラス 30.5×17	2 浅見錦龍	良寛詩 1999 紙・墨 135×280
3 戸島甲喜	聖域の傳説 1976 木・木象嵌 193.5×121	3 浅見錦龍	いろは 1999 紙・墨 135×280
4 戸島甲喜	天と地の間に 1977 木・木象嵌 127.5×87	4 浅見錦龍	太陽 1999 紙・墨 240×540
5 戸島甲喜	蘇生 1977 木・木象嵌 192×120	5 小高映帯	杜甫の詩 1999 紙・墨 8尺×2尺
6 戸島甲喜	古代より… 1978 木・木象嵌 191.5×120	6 中村象閣	平家物語の一節 1937 紙・墨 177×80.5
⑦ 戸島甲喜	胎宙の図 1992 木・木象嵌 89×63	7 中村象閣	万葉長歌 1998 紙・墨 242×182
8 戸島甲喜	胎宙の図 1996 木・木象嵌 44×72	8 中村象閣	星野立子句 1999 紙・墨 229×53

- 9 日暮曠岱 古佛有家風
1998
紙・墨 239.5×177.5
- 10 福田丞洲 啄木のうた
1998
紙・墨 52×168.5
- 11 宮小路康文 四季唐宋詩選
紙・墨 143.5×576

<版画>

- 1 久保木 彦 ローデンプルグの城門
1995
紙・リトグラフ 31×21
- 2 久保木 彦 夢の古城
1995
紙・リトグラフ 29×19
- 3 久保木 彦 与田浦
1999
紙・リトグラフ 23.8×40
- 4 久保木 彦 水無月の水郷
1999
紙・リトグラフ 28×40
- 5 久保木 彦 思い出
1999
紙・リトグラフ 27.4×40

◆収蔵資料数一覧

平成12年3月31日現在

種別	受入方法	購 入	寄 附	保 管 換	合 計
日 本 画		127	149	25	301
洋 画		346	421	42	809
彫 刻		82	25	11	118
工 芸		146	125	10	281
書		110	112	14	236
版 画		152	58	5	215
合 計		963	890	107	1,960
研 究 資 料		243	1,242	53	1,538

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、活動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

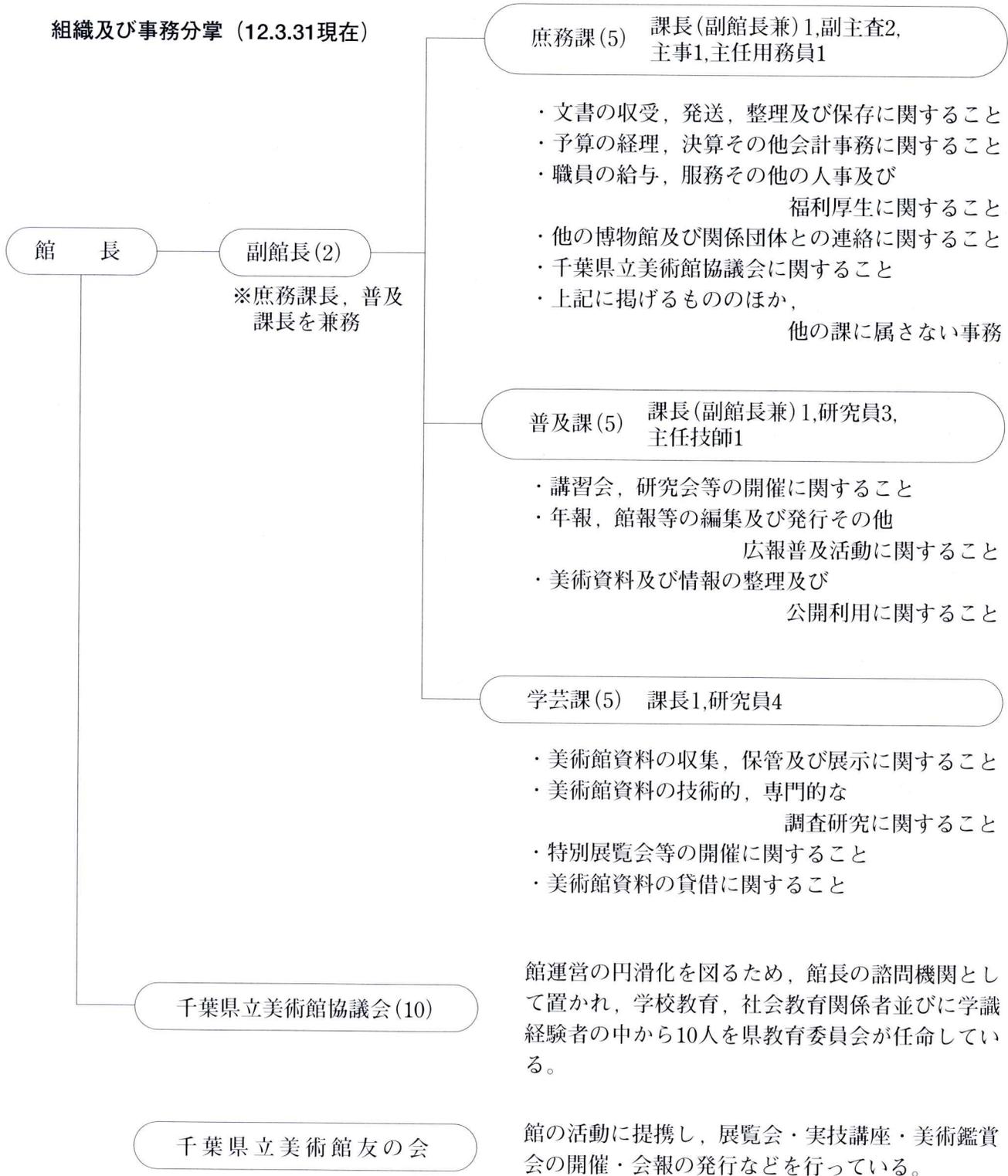
協議会では、美術館の運営について諮問を行った。

運 営 方 針

県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。県民と美術家との交流の場とし、相互の理解と向上を図る美術館。房総の地にかかわりのある美術家の作品と関係資料の収集・研究を目指す美術館。美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、“みる・かたる・つくる”活動を総合的に展開する美術館。

■ 機 構

組織及び事務分掌（12.3.31現在）



■ 平成11年度職員

館長	鈴木道之助
副館長 兼普及課長	米田耕司
副館長 兼庶務課長	藤江光敏
庶務課	
副主査(派)	石井弘美
〃(〃)	宇野澤正義
主事(〃)	菅生力生
主任用務員(〃)	長島則子
普及課	
研究員(派)	志田光
〃(〃)	田村俊雄
〃(〃)	相川順子
主任技師(〃)	中松満始
学芸課	
学芸課長	田坂浩
研究員(派)	濱松繁雄
〃(〃)	山崎京子
〃(〃)	金田雅成
主任技師(〃)	幅大
嘱託	宮原咸太郎

■ 県立美術館協議会委員 (順不同)

石崎朋夫	千葉県経営者協会専務理事
岡野輝男	日本放送協会千葉放送局長
加曾利和夫	前千葉県教育研究会造形部会長
門倉武夫	東京国立文化財研究所名誉研究員
川津幸枝	全日本書芸文化院常任理事
久米公	大東文化大学文学部教授
齋藤志貴雄	千葉県高等学校文化連盟顧問
新城瑠璃	ネスコ株式会社代表取締役会長
山岸正和	千葉県高等学校教育研究会 美術工芸部会長
渡邊富雄(學)	千葉県美術会長

■ 利用状況

入館者数一覧（平成11年度）

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人数 合計
		一般 成人	大・ 高生	中・ 小生	一般成人		大・高生		中・小生		
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	
4	26	5,320	63	380	63	2	48	1	0	0	5,874
5	27	10,822	152	1,333	166	4	0	0	111	2	12,584
6	26	13,483	1,119	2,258	391	12	91	3	131	3	17,473
7	27	11,296	487	1,866	923	12	20	1	20	1	14,612
8	26	7,849	409	2,631	323	5	0	0	0	0	11,212
9	26	8,226	459	1,190	444	15	0	0	51	1	10,370
10	22	13,366	863	1,269	501	11	238	2	0	0	16,237
11	24	8,433	621	1,155	158	5	30	1	51	1	10,448
12	22	14,145	154	7,051	231	14	0	0	20	1	21,601
1	23	5,552	96	711	309	9	0	0	89	1	6,757
2	25	7,135	398	1,766	404	4	0	0	163	2	9,866
3	27	20,138	706	3,236	228	6	0	0	72	2	24,380
計	301	125,765	5,527	24,846	4,141	99	427	8	708	14	161,414

開館以来 総開館日数 7,426日 総入館者数 4,344,355人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外 国	合 計
		千 葉 市	そ の 他	東 京 都	そ の 他		
4	26	2,752	2,605	255	212	50	5,874
5	27	5,459	6,103	532	482	8	12,584
6	26	7,088	8,838	770	771	6	17,473
7	27	5,806	7,782	470	542	12	14,612
8	26	4,494	5,677	614	419	8	11,212
9	26	3,507	5,969	329	556	9	10,370
10	22	6,158	9,225	416	430	8	16,237
11	24	3,754	5,608	234	847	5	10,448
12	22	3,197	17,698	476	222	8	21,601
1	23	2,316	3,961	220	257	3	6,757
2	25	4,250	4,877	356	355	28	9,866
3	27	7,599	12,239	1,494	3,035	13	24,380
計	301	56,380	90,582	6,166	8,128	158	161,414

■ 展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
1	第23回鳳聲会書作展	4/13～18	書	101
2	第69回郷陽会展	4/13～18	洋画	215
3	第13回ガラス絵コクリコ会展	4/13～18	ガラス絵	46
4	第10回千葉県木彫会展	4/20～25	彫刻	74
5	MUSABI展	4/27～5/3	日本画・洋画	37
6	表美展	4/27～5/3	表装・額装・屏風	146
7	第13回カラダスト展	4/27～5/3	洋画	52
8	第25回歩会彫刻展	4/27～5/9	彫刻	59
9	第13回千葉水彩展	5/5～5/9	洋画	90
10	第26回千葉新協展	5/5～5/9	洋画	93
11	第39回千葉アマチュア美術会展	5/11～16	日本画・洋画・彫刻・俳画・工芸その他	11303
12	第23回墨の県展	5/18～23	水墨画・洋画・写真・その他	402
13	第44回二科会千葉支部展	5/25～30	洋画	666
14	第25回養展	5/25～30	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真	49
15	第46回千葉県書道協会展	6/1～6	書	534
16	第24回関東全展	6/8～13	日本画・洋画・工芸	174
17	第26回千虹会日本画展	6/8～20	日本画	42
18	第21回新槐樹社千葉県支部展	6/15～20	洋画・彫塑	39
19	第22回千葉一陽展	6/15～20	洋画	194
20	千葉幼児美術展	6/15～20	絵画他	1900
21	第27回水彩連盟千葉支部展	6/22～27	洋画	57
22	第14回日本画四季展	6/22～7/4	日本画	59

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
23	第43回千葉県小中学校書写展	6/29～7/4	書	1300
24	〈明日を拓く〉教育美術展	6/29～7/4	洋画・立体	1000
25	精鋭展	6/29～7/4	洋画	80
26	第31回千葉市水墨画同好会連合会展	7/6～18	水墨画	436
27	第100回習美会初夏大作展	7/20～25	日本画・洋画・その他	187
28	第15回記念日本水彩画会千葉県支部展	7/20～25	洋画	68
29	第28回写真千葉県展	7/27～8/8	写真	326
30	第20回龍峽書道会千葉展	7/27～8/1	書	325
31	葉美会展	7/27～8/1	日本画・洋画・写真	70
32	第33回漱雲会全国書道展	7/27～8/1	書	450
33	第44回千葉二紀会展	8/3～8	洋画	98
34	白亜美術協会千葉支部展	8/3～8	洋画	43
35	第9回太平洋美術会千葉支部展	8/10～15	洋画・彫刻・工芸	175
36	第29回いてふ会彫刻展	8/10～22	彫刻	50
37	'99第一美術協会千葉県支部展	8/17～22	洋画・工芸	133
38	第37回新世紀千葉支部展	8/24～29	彫刻	45
39	第29回新構造千葉支部展	8/24～29	洋画・彫刻・工芸・写真	186
40	第19回日本春秋書院千葉書連展	8/24～29	書	144
41	第16回「美しい郷土」 絵画コンクール優秀作品展	8/24～29	絵画	684
42	第39回白扇書道会展	8/31～9/5	書	5916
43	等迦会千葉県支部展	9/7～12	洋画	57
44	第32回千葉県高校芸術祭「合同写真展」	9/7～12	写真	477

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
45	ダネラ展	9/7～12	工芸	51
46	中央美術協会千葉支部第16回展	9/14～19	日本画・洋画	75
47	第22回千葉県写真展	9/14～26	写真	150
48	第49回デザインフェスタCHIBA	9/21～26	デザイン	103
49	第46回千葉県勤労者美術展	9/21～26	洋画・書・写真	167
50	第31回ファンシー洋画展	9/28～10/3	洋画	68
51	第26回文化書道千葉県連合会公募展	9/28～10/3	書	363
52	第19回二科会写真部千葉支部展	9/28～10/3	写真	50
53	第10回千葉県教育芸術祭	10/5～11	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真他	857
54	日本書道学会千葉県連合会第15回書道展	10/5～11	書	106
55	第51回千葉県美術展（県展）	10/16～11/7	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	3320
56	千葉県高校芸術祭 「美術工芸書道作品展」	11/10～21	洋画・彫刻・デザイン・工芸・書・その他	3087
57	第31回千葉現展	11/23～28	日本画・洋画・デザイン・工芸・写真	83
58	第17回明るい社会づくり ポスターコンクール展	11/23～28	絵画	48184
59	第44回こども県展	11/30～12/12	絵画	8789
60	千葉県立幕張総合高校書道部校外展	12/14～19	書	143
61	富士百景写真展	1/5～10	写真	90
62	第35回登龍社書初展	1/5～10	書	345
63	第33回千葉県老人クラブ会員作品展	1/18～23	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真他	213
64	第17回千葉県医師会美術展	1/18～23	日本画・洋画・彫刻・写真・工芸・書	115
65	千葉日報書道展	1/25～30	書	414
66	第52回千葉県小中高校書き初め展	2/1～6	書	732

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
67	第15回書星選抜展	2/1～6	書	261
68	群鷗書人展	2/8～13	書	50
69	第25回子ども造形展	2/8～13	絵画・彫刻・デザイン・立体	2000
70	千葉大学教育学部美術科図工科卒業制作展	2/15～20	洋画・彫刻・デザイン・工芸・立体	118
71	千葉大学教育学部第34回学生書道展	2/15～20	書	117
72	千葉県建設業協会文化作品展	2/15～20	日本画・洋画・工芸・書・写真	132
73	第29回千葉県大学美術連盟展	2/22～27	日本画・洋画・工芸・書・写真	56
74	第25回千葉県民写真展	2/22～27	写真	516
75	第11回日本童謡の書展	2/29～3/5	書	3702
76	第5回翔洋展	3/7～12	洋画	48
77	第3回平成美術会展	3/7～12	洋画	271
78	和洋女子大学卒業展	3/7～12	書	40
79	第23回唱和会書展	3/14～20	書	161
80	第47回書星教育部展	3/22～26	書	546

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炝器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランブを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロがしみ込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性銅等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいええない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルターの3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はC A V（定風量型）+ V A V（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。V A V方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つV A V方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収の亚克力拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値があり、また水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（通過率53.6%）と黒地のジョーゼット（通過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふとところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

〈施工者〉

建築：（株）竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積	33,057.87㎡
建築面積	8,777.94㎡
延床面積	10,663.57㎡
展示棟	6,343.02㎡
管理棟	2,818.89㎡
県民アトリエ棟	1,501.66㎡
駐車台数	97台

〈工期及び建設経費〉

(1) 第1期工事(展示棟) 5,194.59㎡
(建築面積5,102.35㎡)

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円
 本体工事 425,230千円
 電気設備工事 79,663千円
 空調設備工事 166,493千円
 給排水衛生設備工事 28,995千円
 外溝工事 67,705千円
 ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事(管理棟) 2,274.60㎡
(建築面積1,089.50㎡)

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円
 本体工事 307,500千円
 電気設備工事 30,000千円
 空調設備工事 79,000千円
 給排水衛生設備工事 19,514千円
 外溝工事 17,786千円

(3) 第3期工事(県民アトリエ) 1,501.66㎡
(建築面積1,449.34㎡)

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円
 本体工事 265,300千円
 電気設備工事 35,000千円
 空調設備工事 56,200千円
 給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円
 外溝工事 8,000千円

(4) 第4期工事(第8展示室1,148.43㎡
 収蔵庫544.29㎡) 1,692.72㎡
(建築面積1,136.75㎡)

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円
 本体工事 476,000千円
 電気設備工事 81,000千円
 空調設備工事 171,000千円
 給排水衛生設備工事 19,500千円
 総工事費 2,355.267千円

工期別面積一覧

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	325.04	4,750.79	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	340.50	8,472.01	1,793.30	57.76	10,663.57

〈概要〉

建物

【階数】

地下1階, 地上2階, 塔屋1階建

【高さ】

基礎底: G L - 5.00m

高さ: G L + 15.20m

【構造】

主体構造: 鉄筋コンクリート造

屋根: 鉄骨造

主鋼材: S S 4 1 及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階スラブ)

$F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$

B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上部)

$F_c = 300 \text{ kg/cm}^2$

C種・軽量コンクリート(地上部躯体でA B以外の

梁・壁など) $F_c = 240 \text{ kg/cm}^2$

〈設備〉

【電気設備】

受電方式: 交流3相3線式6,000V 50Hz

電話交換方式: 64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟=C A V (定風量型) + V A V (可変風量型) 方式

管理棟=V A V方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源: 空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水: ポンプ圧送方式, 引込み管径75mm

排水: 汚水・雑排水合流方式系統(管径300), 雨水系統(管径300)別, 公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式: 自然排煙, 機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式: 屋外・屋内消化栓, 不燃性ガス消化設備(ハロゲン1301)

自家発電: ディーゼル機関直結交流発電機, 定格出力100kVA

火災報知設備: P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備: I T Vカメラ設備, 防犯警報装置

昇降機設備: 荷物用エレベーター

規模: 容量3,000kg,

カゴ内法=3,000mm×3,000mm×3,000mm,

速度30m/min

展示棟

玄関ホール	102.40㎡
クローク	91.80㎡
倉庫 A	2.70㎡
〃 B	〃
第1展示室	437.76㎡
〃 2	400.32㎡
〃 3	469.08㎡
〃 4	403.20㎡
〃 5	824.19㎡
〃 6	330.58㎡
〃 7	566.56㎡
〃 8	864.61㎡
食堂	119.52㎡
厨房	36.00㎡
従業員控室	17.28㎡
食堂ホール	49.20㎡
ミュージアムショップ	12.00㎡
ロビー	335.52㎡
第1休憩室	23.04㎡
〃 2	〃
〃 3	〃
便所 A	30.24㎡
〃 B	23.76㎡
身障者用便所	7.92㎡
コントロール室	20.16㎡
フィルター室	28.92㎡
工作室	31.00㎡
発電気室	25.00㎡
電気室	123.20㎡
ポンプ室	76.80㎡
機械室	305.20㎡
機械室(新)	283.82㎡
高架水槽室	11.46㎡
E.V機械室	27.28㎡
E.V廻り	54.56㎡
ダクトスペース	35.68㎡
廊下等	123.48㎡

計 ① 6,343.02㎡

管理棟

(1階)	
第2会議室	22.62㎡
更衣室	14.38㎡
医務室	21.18㎡
書庫	22.02㎡
警備員室	43.59㎡
第1会議室	20.15㎡
倉庫	7.19㎡
湯沸室	5.19㎡
便所	24.54㎡
宿直室	34.20㎡
物置	9.92㎡
用務員室	31.83㎡
審査室・資料室	520.68㎡
準備室・荷解室	
消毒室	31.79㎡
資料倉庫	124.25㎡
荷解梱包室	52.67㎡
荷扱人室	21.94㎡
機械室	51.74㎡
廊下等	123.97㎡
小計	1,183.85㎡

(2階)	
館長室	33.27㎡
副館長室	23.42㎡
第1応接室	14.67㎡
第2応接室	14.55㎡
庶務課室	112.34㎡
会議室	43.84㎡
学芸課・普及課室	195.32㎡
学芸相談室	23.91㎡
研究工作室	216.49㎡
写真スタジオ	54.30㎡
器材室	6.74㎡
暗室	12.19㎡
第1収蔵室	184.40㎡
〃 2	42.81㎡
〃 3	544.29㎡
E.V前室	16.39㎡
便所	21.50㎡
湯沸室 A	3.24㎡
〃 B	6.87㎡
廊下等	60.94㎡
ダクトスペースその他	3.56㎡
小計	1,635.04㎡
計 ②	2,818.89㎡

県民アトリエ棟

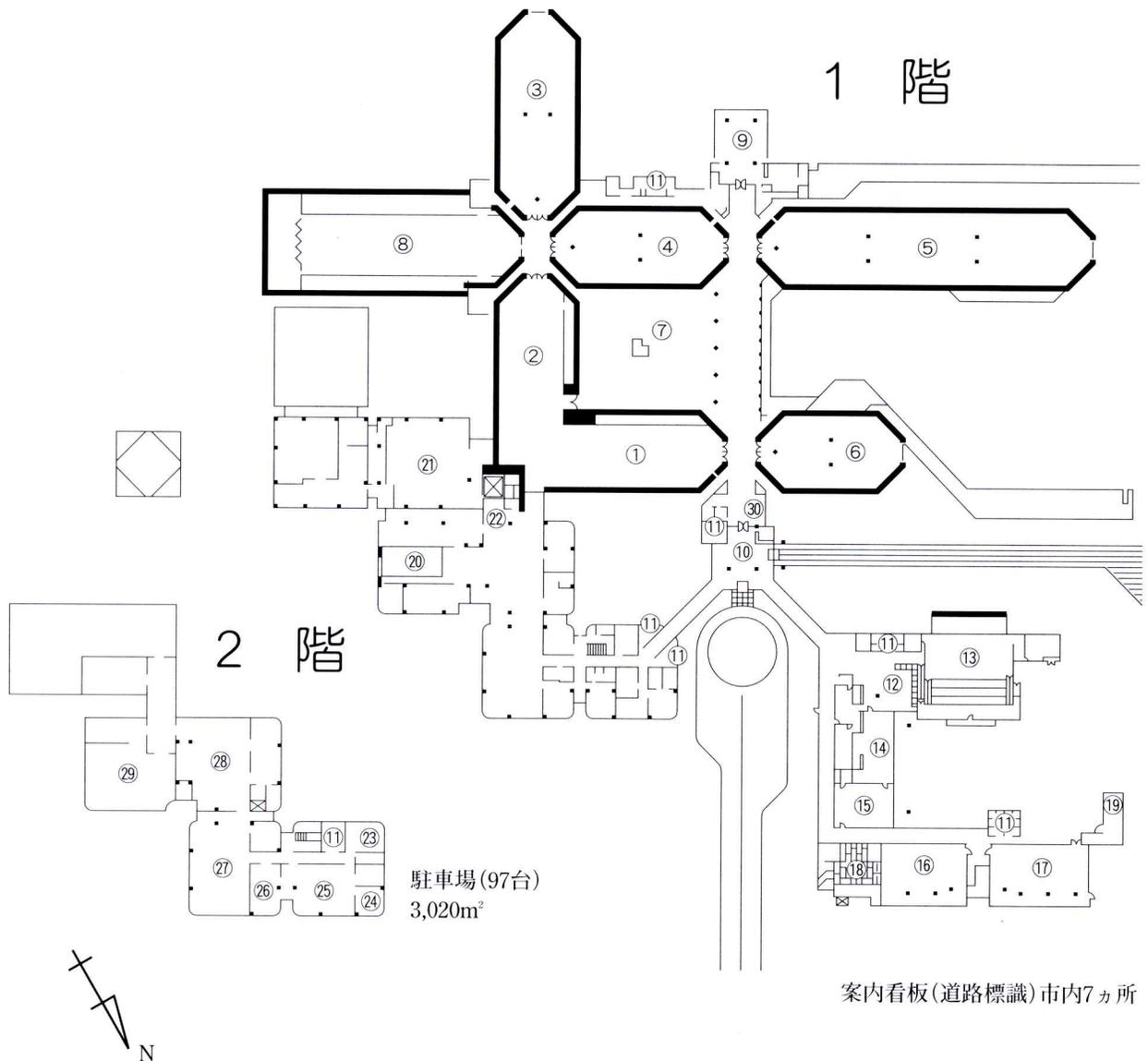
1F機械室	25.92㎡
講堂倉庫	8.64㎡
講堂	259.24㎡
コントロール室	30.33㎡
ホール側便所	29.97㎡
情報資料室	172.77㎡
情報資料室倉庫	4.70㎡
事務室	22.76㎡
研修室	74.70㎡
研修室倉庫	4.23㎡
第1アトリエ	155.70㎡
〃 2	184.31㎡
〃 3	95.47㎡
アトリエ側便所	20.77㎡
荷解室	25.65㎡
窯場	27.17㎡
窯場倉庫	6.66㎡
ホールその他	352.67㎡
計 ③	1,501.66㎡
合計	10,663.57㎡
(①+②+③)	

<参考>

*展示室総面積	4,296.30㎡
*収蔵庫総面積	771.50㎡

内容

- | | |
|-------------|----------|
| ①～⑧展示室 | ⑩～⑬実技室 |
| ⑨食堂 (44席) | ⑭窯場 |
| ⑩玄関ホール | ⑮搬出入口 |
| ⑪トイレ | ⑯機械室 |
| 男子用 6ヶ所 | ⑰エレベーター |
| 女子用 6ヶ所 | ⑱館長室 |
| 身体障害者用 2ヶ所 | ⑲副館長室 |
| ⑫ホール | ⑳庶務課 |
| ⑬講堂 (200人) | ㉑会議室 |
| ⑭情報資料室 | ㉒学芸課・普及課 |
| 火～金 | ㉓研究工作室 |
| 12:30～16:30 | ㉔収蔵庫 |
| ⑮研修室 (40人) | ㉕ミュージアム |
| | ショップ |



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例(昭和32年千葉県条例第4号)第20条に規定する博物館(以下「館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する日に当たるときは、その翌日)
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体(20人以上の場合をいう。)で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書(別記第3号様式)により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。
- 四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代償をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式(省略)

2. 使用料及び手数料条例(抜粋)

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料及び手数料(以下「使用料等」という。)に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設(以下「財産等」という。))の使用並びに特定の個人のためにする事務(以下「事務」という。)に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一(抜粋)

財産又は事務の種類	使用料等	区分	単位	額
博物館	入場料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

(以下省略)

3. 使用料及び手数料規則(抜粋)

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の3 条例第8条の2の規定による規則で定める場合及び規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六(抜粋)

行 事 等	施 設
県民の日(6月15日) 65歳以上の者、身体障害者(介護者を含む。) 又は知的障害者が使用する場合	博物館

利用案内

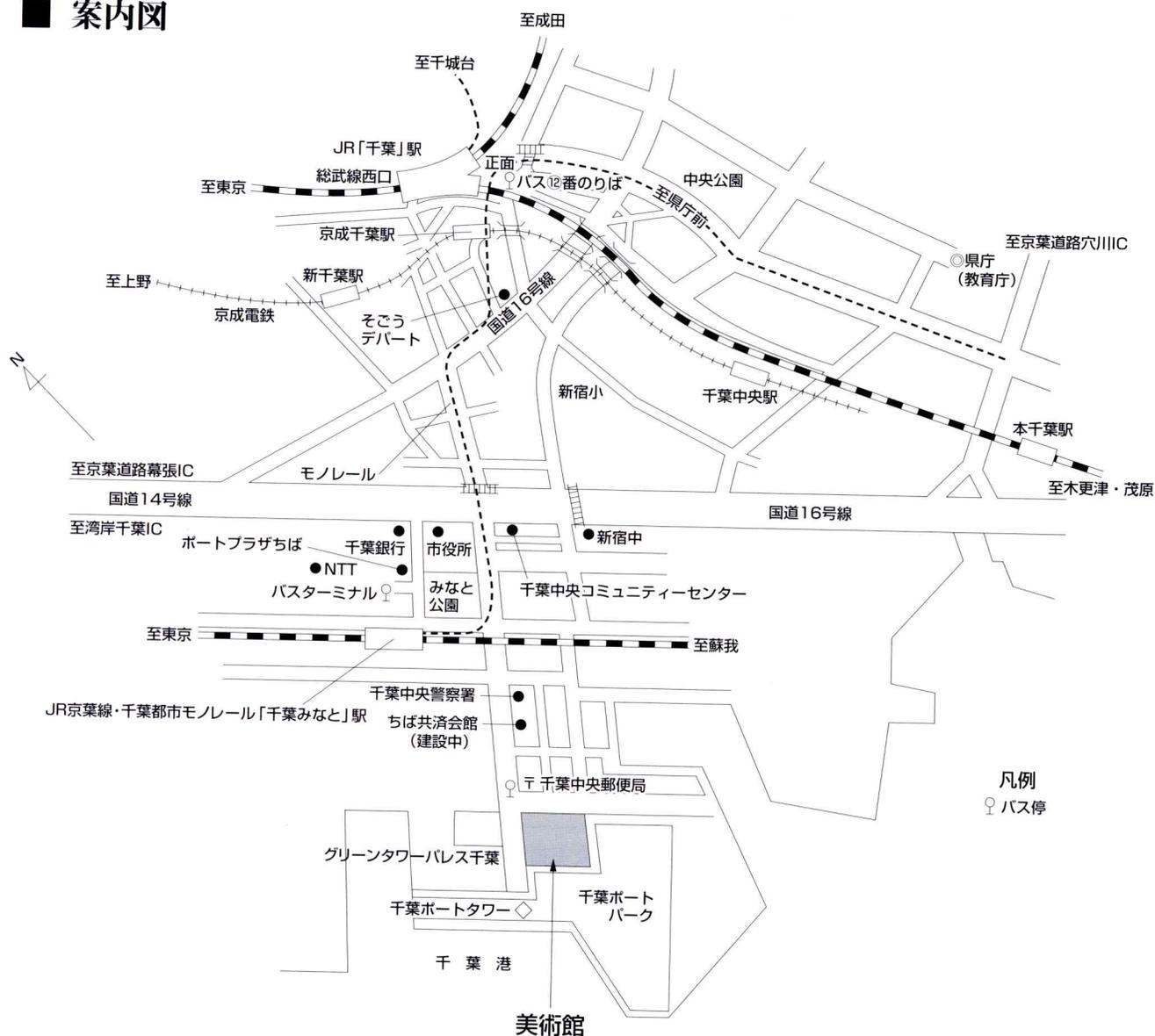
■ 開館時間

開館時間 午前9時から午後4時30分まで
 休館日 ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 ・年末年始（12月26日～1月4日）
 ・展示替え等のため、必要があるとき。
 観覧料 ・ 無料（ただし、特別展は有料）

■ 交通

★JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車，徒歩8分。
 ★JR「千葉」駅・京成線「京成千葉」駅下車
 ●徒歩23分。
 ●バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車，徒歩1分。

■ 案内図



平成11年度千葉県立美術館年報 (No.26)

平成12年6月30日発行

発行者 千葉県立美術館

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

T E L 0 4 3 (2 4 2) 8 3 1 1



